

第100回 卒業式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 1部10円
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

両学部170名が巣立つ 卒業証書番号No.一九九〇二号に

日本歯科大学第一〇〇回卒業式(学位記)授与式は、三月中旬両学部において挙行し、一七〇名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第四十八回修了式が催され、三十三名の博士(歯学)に学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第48回大学院修了式を併催

生命歯学部は、三月十一日に生命歯学部富士見ホールにおいて、大学院第四十八回修了式を併催して挙行された。定刻午前十時、司会の鈴木洋一庶務部長が開式



卒業生に告辞を述べる中原学長(3月18日・新潟)



学位記を手渡される卒業生代表(3月11日・東京)

謹んで お見舞いを申しあげます
このたびの東日本大震災により 被害を受けられた皆様に 心からお見舞い申しあげます
一日も早い復興をお祈りいたします

学校法人日本歯科大学
中原 泉
教職員一同

究科長が告辞(別掲)を述べた。

つづいて在学学生を代表して第五学年の佐藤裕介君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して那須真奈さん、修了生を代表して佐藤宏和君が答辞を述べた。

第一〇〇回卒業を記念して、代表の中島慎太郎君に中原学長から記念品が贈呈された。

つぎに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱した。

新潟生命歯学部の部は三月十八日に新潟生命歯

学部講堂において大学院第四十八回修了式を併催して挙行された。

定刻午前十一時、開式に先立ち司会の大場憲業事務部長は、「二週間前の東日本大震災の被災者の方々に心からのお見舞いを申しあげ、犠牲となられた方々に哀悼の意を表します」と述べ、参加者一同起立して黙祷を捧げた。

つぎに開式を宣し、クラス主任の五十嵐勝教授より、平成二十二年卒業生六十五名の氏名が呼びあげられた。野本高志君が代表して、中原学長より、栄えある卒業の証として学士(歯学)の学位記を授与された。つづいて各賞の受賞者に対して賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科の下村浩巳教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生十三名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。田巻友君に研究発表優秀賞が授与された。

つぎに中原学長、小倉英夫新潟生命歯学部長、ならびに下村研究科長が告辞(別掲)を述べた。

つづいて在学学生を代表して第五学年の飯野華絵さんが先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して野本高志君、大学院修了生を代表して小澤誠君が答辞を述べた。最後に卒業生を代表して高橋理恵さんに、第一〇〇回卒業記念品が贈呈された。

東京短期大学の卒業式は、三月十日午前十時より生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず第三十八回歯科衛生学卒業生六十名と、第四十二回歯科理工学科卒業生三十名の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に先立ち、東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げた。

ついで第二回専攻科歯科衛生学専攻修了生六名

と第四十回専攻科歯科衛生学専攻修了生十四名に修了証が授与された。あわせて、歯科衛生学卒業生全員に、東京都訪問介護員修了証明書が授与された。

つぎに小口学長が告辞を述べ、来賓祝辞として、住友雅人生命歯学部長は、「昨年四月の診療報酬改定により、歯科技工加算と術後専門的口腔衛生処置が導入されたことで、歯科技工士と歯科衛生士の役割はますます重要になった」と述べ、チーム医療の重要性を強調した。

ついで、羽村章附属病院院長は「医療者にとって大切なことは、仕事へのモチベーションをレベルアップすることである」と祝辞を述べた。

新潟短期大学の卒業式は、三月十七日午前十一時より、新潟生命歯学部講堂で挙行された。開式に先立ち、東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げた。まず第二十六回歯科衛生学卒業生五十五名に、柴崎浩一学長から短期大学士(歯科衛生学)の学位記とホームヘルパー二級課程の修了証書、専攻科修了生一名に

志賀教授の新規技術は「有床義歯補綴治療法における総合的咬合・咀嚼機能検査」で、有床義歯による咀嚼機能の回復が

ご遺体安置所で身元不明者の口腔内検査活動を行った。一方、本学では協力業者から寄せられた歯ブラシや口腔ケア用品などの支援物資を提供した。

修了証書が授与された。ついで日本歯科衛生士会からの表彰状が、新潟病院の三富純子歯科衛生士長より手渡された。ここで柴崎学長が告辞(別掲)を述べ、小倉英夫

新潟生命歯学部長は、「このような困難な時期にこそ、強い心を持たなければならぬ。科学は日進月歩で進んでいるので、卒業しても一生研修を続けてほしい」と祝辞を述べた。

第100回卒業式記念品を贈る

念しを贈る。本学は、卒業生に記念品を贈った。また、配付した。(写真:左は卓上時計、右は)



志賀博教授(東京・補綴工) 先進医療の新規技術の承認をうける

このたび本学生命歯学部の歯科補綴学第一講座の志賀博教授は、先進医療(歯科関連技術)の承認をうける。その咬合・咀嚼機能検査の新規技術は、保険導入される運びとなった。

志賀教授の新規技術は「有床義歯補綴治療法における総合的咬合・咀嚼機能検査」で、有床義歯による咀嚼機能の回復が

ご遺体安置所で身元不明者の口腔内検査活動を行った。一方、本学では協力業者から寄せられた歯ブラシや口腔ケア用品などの支援物資を提供した。

平成二十三年一月一日 歯学博士 村上 俊樹 名誉教授の称号を授与する

辞令

医療職員 古俣弥枝子(看護師) 看護師長を命ずる(新潟病院看護科)

平成二十三年二月一日 本学

中原 泉 学長 卒業告辞 (要旨)

今年日本歯科大学にとつて一つの節目となる年である。本学は明治四十年に創立され、二年後に六十八名の日本歯科医学の卒業生を出した。明治大正期に創立されたある大学は卒業回数を年度で数え、またある大学は専門学校と新制大学とを区分して数えている。本学では文部大臣の指定を受けた歯科医学専門学校として初めて五十四名が卒業した大正元年（明治四十五年）以降、回数を通し番号で数えているので、本年で第二〇〇回目の卒業式となる。私は日本歯科大学第五十四回、住友雅人生命歯学部長は第五十八回、小倉英夫新潟生命歯学部長は第五十七回卒業である。諸君の一〇〇回という

のは、単なる数字ではない。本学の歴史と伝統とあらわすとともに、今年卒業生の永久背番号を示している。諸君が巡り合せて図らずも記念すべき卒業番号を得た。東京・新潟を合わせて二七〇名の諸君だけに与えられたナンバード、諸君は大変に幸運な卒業生である。昨今わが国の歯科医師が過剰であると将来を憂える声が少なくない。昭和四十八年版の厚生白書で、昭和六十年には人口十万人に五千人程度の歯科医師が確保されるという推計を出した。統計や推計は非常に難しいが、この見通しは十年後の昭和五十七年にはすでに到達し、平成十八年には十万人に七千人に達する。この対比から見ると、わが国の歯科医師数は決して過剰とは言えない。日本だけに過剰感があるのは、歯科診療報酬が原因である、一部の識者が的確な指摘をしている。社会保障国民会議が提出した歯科治療費の国際比較によると、日本の個々の歯科診療報酬は国際平均の約八分の一に過ぎない。国際比較はいろいろなファクターが入るので一概に言えないが、八分の一というのは違うすぎるという感じがする。わが国の歯科医師の過剰は、余りに低い歯科診療報酬がもたらした結果である。せめて国際平均程

度の診療報酬であれば、歯科医師の過剰感は生まれる必要もない。先日アメリカに留学する若者の数が、中国と韓国に追い抜かれて第三位に落ちた、とテレビの

ない少子化社会になっていく。私は残念ながらこの減少は、日本人という民族の活力が衰退しているからだと考える。人口統計が始まった明治二十五年には四千万人にすぎなかったが、爆発的に増加し、昭和二十三年には八千万人、昭和四十二年には一億人に達した。平成十七年に

一億二千七百万人のピークを迎え、百数十年で人口は三倍にも増えた。しかしこの年から自然減に転じて減少の一途を辿り、十五年後の二〇二五年には九千九百万人、四十年後の二〇五〇年には九千五百万人になると推計されている。これから二十年間で三千二百万人も減ってしまう。別の人口推計では、八千万人まで落ち込むと予測している。人口の多かたつたときを基準にして、社会活動を論じていても外れな答しか出てこない。それは過去の幻影を追うに等しいからだ。人口の絶対的な変動は、歯科界のみならず全ての社会構造に大きな影響を及ぼしている。現在生じている現象や問題は、全てこの人口変動が通底している。私もはこの人口減少に対応して、自らの社会構造を縮小してスリム化しなければならぬ。現代の変化のスピードに、絶えず対応し即応していくことが求められる。

最後に、日本歯科大学第一〇〇回卒業という永久背番号を付けて、社会の荒波に乗り出していく卒業生諸君の健闘を祈る。

昨今の多難な歯科事情のもとでこれから船出される皆さんにとっては決して楽な航海ではないが、目指す志と目標に向かってこれまでのように真摯な努力を続けられ、前途は洋々として必ずや開けると確信している。

醍醐味により身体の健康を得てその上、安寧の心を兼ね備えた上で将来の日本のあるいは世界の歯科界を担う研究者として、また地域歯科医療の場で一人でも多くの患者さんに最上の歯科医療で健康と命を助けることができる臨床歯科医として大いに活躍いただきたいことを楽しみにしている。

平成十八年のWHOのデータによると、人口千人あたりの日本の歯科医師数は〇・七一人である。またOECD経済協力開発機構の加盟三十四国の平均は〇・七二で日本とほぼ同じ水準である。対十万人に直すと、日本は七十一人、OECDは七十二人となる。この対比から見ると、わが国の歯科医師数は決して過剰とは言えない。日本だけに過剰感があるのは、歯科診療報酬が原因である、一部の識者が的確な指摘をしている。社会保障国民会議が提出した歯科治療費の国際比較によると、日本の個々の歯科診療報酬は国際平均の約八分の一に過ぎない。国際比較はいろいろなファクターが入るので一概に言えないが、八分の一というのは違うすぎるという感じがする。わが国の歯科医師の過剰は、余りに低い歯科診療報酬がもたらした結果である。せめて国際平均程

度の診療報酬であれば、歯科医師の過剰感は生まれる必要もない。先日アメリカに留学する若者の数が、中国と韓国に追い抜かれて第三位に落ちた、とテレビの

ない少子化社会になっていく。私は残念ながらこの減少は、日本人という民族の活力が衰退しているからだと考える。人口統計が始まった明治二十五年には四千万人にすぎなかったが、爆発的に増加し、昭和二十三年には八千万人、昭和四十二年には一億人に達した。平成十七年に

一億二千七百万人のピークを迎え、百数十年で人口は三倍にも増えた。しかしこの年から自然減に転じて減少の一途を辿り、十五年後の二〇二五年には九千九百万人、四十年後の二〇五〇年には九千五百万人になると推計されている。これから二十年間で三千二百万人も減ってしまう。別の人口推計では、八千万人まで落ち込むと予測している。人口の多かたつたときを基準にして、社会活動を論じていても外れな答しか出てこない。それは過去の幻影を追うに等しいからだ。人口の絶対的な変動は、歯科界のみならず全ての社会構造に大きな影響を及ぼしている。現在生じている現象や問題は、全てこの人口変動が通底している。私もはこの人口減少に対応して、自らの社会構造を縮小してスリム化しなければならぬ。現代の変化のスピードに、絶えず対応し即応していくことが求められる。

最後に、日本歯科大学第一〇〇回卒業という永久背番号を付けて、社会の荒波に乗り出していく卒業生諸君の健闘を祈る。

昨今の多難な歯科事情のもとでこれから船出される皆さんにとっては決して楽な航海ではないが、目指す志と目標に向かってこれまでのように真摯な努力を続けられ、前途は洋々として必ずや開けると確信している。

醍醐味により身体の健康を得てその上、安寧の心を兼ね備えた上で将来の日本のあるいは世界の歯科界を担う研究者として、また地域歯科医療の場で一人でも多くの患者さんに最上の歯科医療で健康と命を助けることができる臨床歯科医として大いに活躍いただきたいことを楽しみにしている。



卒業生と大学院修了生にエールを送る中原学長

今年日本歯科大学にとつて一つの節目となる年である。本学は明治四十年に創立され、二年後に六十八名の日本歯科医学の卒業生を出した。明治大正期に創立されたある大学は卒業回数を年度で数え、またある大学は専門学校と新制大学とを区分して数えている。本学では文部大臣の指定を受けた歯科医学専門学校として初めて五十四名が卒業した大正元年（明治四十五年）以降、回数を通し番号で数えているので、本年で第二〇〇回目の卒業式となる。私は日本歯科大学第五十四回、住友雅人生命歯学部長は第五十八回、小倉英夫新潟生命歯学部長は第五十七回卒業である。諸君の一〇〇回というのは、単なる数字ではない。本学の歴史と伝統とあらわすとともに、今年卒業生の永久背番号を示している。諸君が巡り合せて図らずも記念すべき卒業番号を得た。東京・新潟を合わせて二七〇名の諸君だけに与えられたナンバード、諸君は大変に幸運な卒業生である。昨今わが国の歯科医師が過剰であると将来を憂える声が少なくない。昭和四十八年版の厚生白書で、昭和六十年には人口十万人に五千人程度の歯科医師が確保されるという推計を出した。統計や推計は非常に難しいが、この見通しは十年後の昭和五十七年にはすでに到達し、平成十八年には十万人に七千人に達する。この対比から見ると、わが国の歯科医師数は決して過剰とは言えない。日本だけに過剰感があるのは、歯科診療報酬が原因である、一部の識者が的確な指摘をしている。社会保障国民会議が提出した歯科治療費の国際比較によると、日本の個々の歯科診療報酬は国際平均の約八分の一に過ぎない。国際比較はいろいろなファクターが入るので一概に言えないが、八分の一というのは違うすぎるという感じがする。わが国の歯科医師の過剰は、余りに低い歯科診療報酬がもたらした結果である。せめて国際平均程

度の診療報酬であれば、歯科医師の過剰感は生まれる必要もない。先日アメリカに留学する若者の数が、中国と韓国に追い抜かれて第三位に落ちた、とテレビの

ない少子化社会になっていく。私は残念ながらこの減少は、日本人という民族の活力が衰退しているからだと考える。人口統計が始まった明治二十五年には四千万人にすぎなかったが、爆発的に増加し、昭和二十三年には八千万人、昭和四十二年には一億人に達した。平成十七年に

一億二千七百万人のピークを迎え、百数十年で人口は三倍にも増えた。しかしこの年から自然減に転じて減少の一途を辿り、十五年後の二〇二五年には九千九百万人、四十年後の二〇五〇年には九千五百万人になると推計されている。これから二十年間で三千二百万人も減ってしまう。別の人口推計では、八千万人まで落ち込むと予測している。人口の多かたつたときを基準にして、社会活動を論じていても外れな答しか出てこない。それは過去の幻影を追うに等しいからだ。人口の絶対的な変動は、歯科界のみならず全ての社会構造に大きな影響を及ぼしている。現在生じている現象や問題は、全てこの人口変動が通底している。私もはこの人口減少に対応して、自らの社会構造を縮小してスリム化しなければならぬ。現代の変化のスピードに、絶えず対応し即応していくことが求められる。

最後に、日本歯科大学第一〇〇回卒業という永久背番号を付けて、社会の荒波に乗り出していく卒業生諸君の健闘を祈る。

昨今の多難な歯科事情のもとでこれから船出される皆さんにとっては決して楽な航海ではないが、目指す志と目標に向かってこれまでのように真摯な努力を続けられ、前途は洋々として必ずや開けると確信している。



卒業生点呼 (3月11日・東京)



学位記授与 (3月18日・新潟)

大学院研究科長 修了告辞 (要旨)

生命歯学研究科長 佐藤田鶴子

四年間の厳しくも充実した研究生活を終え、珠玉の研究成果を挙げられた二十名の大学院修了生は、おのおの歯科医学の中でも未だ確立していない多くの事象の探索に遭遇し取り組んできた。

ある修了生は今先端をいく神経の再生や顎骨の再生を研究し、ある者は歯周病病原菌の遺伝子やタンパク解析を、またある者は歯科用セラミック

の研究などの工学的な研究に取り組み、広く多くの研究成果が生まれた。これらは今後の歯科医学や医学一般に多大な貢献をする学術的根拠、エビデンスになるものと思う。

大学院生活の中で取り組んだ研鑽と研究の数々に対する努力が立派な成果を生み、研究活動の充実感と達成感を体得したことと思う。他の物事に対する深い味わいも甘受できるように、真実を追求することの大事さや面白さを体得できたはずだ。まさにこれこそ研究の醍醐味といえる。

古くから仏教の経典に醍醐味は最上なり、もしもこれを服することある者あらば衆病皆除く。つまり味は最上しかもどんな病気にも効くものであると伝えられている。牛乳を煮詰めて精製してできる最上の味の食べ物を醍醐というように、心から真摯に直面し続けると免疫力が増し、その人自身の健康にもよいものと言われ、最上の教えのことを醍醐味と呼ぶようになった。本日に博士号を取られた方々はこれまでに経験した醍醐味を忘れずいていただきたい。さら

醍醐味により身体の健康を得てその上、安寧の心を兼ね備えた上で将来の日本のあるいは世界の歯科界を担う研究者として、また地域歯科医療の場で一人でも多くの患者さんに最上の歯科医療で健康と命を助けることができる臨床歯科医として大いに活躍いただきたいことを楽しみにしている。

グルタミン酸ナトリウムは現在も味の素として広く利用されている。グルタミン酸は味蕾にあり、グルタミン酸受容体を介して、うま味を伝達する。この「うま味」は「Umami」と同様、国際的に広く使用されている。また日本の薬学の開始

者として知られる長井長義博士はエドリンの単離に成功しており、高峰讓吉博士はアドレナリンの結晶化とその構造解析に成功した。当時はヨーロッパを中心に選考されていたことからノーベル賞受賞の機会を逃したが、日本の化学研究は一朝一夕に成り立つたのではない。

日本歯科大学 OPEN CAMPUS 2011
～高校生はもちろん、どなたでも参加できます～

◇新潟生命歯学部オープンキャンパス
5/15(日), 6/12(日), 7/23(土), 8/27(土), 9/18(日)
11時20分～16時
新潟生命歯学部で実施するAO入試の受験には、オープンキャンパスへの参加が必須です(昨年度の参加可)

新潟生命歯学部 検索 <http://www.ngt.ndu.ac.jp>

◇生命歯学部(東京)オープンキャンパス
7/9(土), 8/18(木), 8/27(土), 10/8(土), 11/3(木), 11/4(金)
午前の部: 10時開始, 午後の部: 14時開始
※8/27(土)は13時から1回, 11/4(金)は午前の部のみ

生命歯学部 検索 <http://www.tky.ndu.ac.jp>

昨今の多難な歯科事情のもとでこれから船出される皆さんにとっては決して楽な航海ではないが、目指す志と目標に向かってこれまでのように真摯な努力を続けられ、前途は洋々として必ずや開けると確信している。

醍醐味により身体の健康を得てその上、安寧の心を兼ね備えた上で将来の日本のあるいは世界の歯科界を担う研究者として、また地域歯科医療の場で一人でも多くの患者さんに最上の歯科医療で健康と命を助けることができる臨床歯科医として大いに活躍いただきたいことを楽しみにしている。

グルタミン酸ナトリウムは現在も味の素として広く利用されている。グルタミン酸は味蕾にあり、グルタミン酸受容体を介して、うま味を伝達する。この「うま味」は「Umami」と同様、国際的に広く使用されている。また日本の薬学の開始

者として知られる長井長義博士はエドリンの単離に成功しており、高峰讓吉博士はアドレナリンの結晶化とその構造解析に成功した。当時はヨーロッパを中心に選考されていたことからノーベル賞受賞の機会を逃したが、日本の化学研究は一朝一夕に成り立つたのではない。

七名のノーベル賞受賞者はもちろん、長井博士は明治政府の第一期留学生として明治四年にドイツ・ベルリン大学へ、高峰博士はイギリスのグラスゴー大学、鈴木博士はドイツへと留学している。現在日本の留学生の数が最盛期の半数となったことで、日本の科学界は大変な危機感をもっている。現在の日本の科学のレベルや研究施設は欧米と殆ど格差がなくなつた。しかし、著名な研究者がいる諸外国への留学生は、優れた科学者のもとでその思想を学ぶことができるほかに、最も大切なことは異文化との交流を通して新しい着想が生まれることにある。

PhDと略している博士の学位、Doctor Degree or Philosophyの資格は国際的に通用するものだから、学位を取得した諸君は希望すれば世界中の研究機関や大学の研究機関が受け入れてくれる。今後の目標を定め、その目標にあう研究機関はどこなのか、じっくりと検討し飛躍の機会を自ら作られることを希望する。

歯学部 卒業告辞 (要旨)

新潟生命歯学部 小倉英夫

現在の日本は国難ともいえる状況にある。このように厳しいときこそ、強い心をもって物事にあたらないと人生は豊かにならない。そして強心に基づいた本学の理念である自主独立をやっ

ているので、遅れないようにしなければならぬ。今までは大学での指導に基づいて学習して

歯の再生を利用した応用科学を考へており、本学では最大限のことをやっ

の最新の研究成果を知ることが出来る。日本社会ひいては世界に大きく貢

献できる人たちに成ることが出来る。日本社会ひいては世界に大きく貢

新潟短期大学の学位記授与式ならびに第十三回専攻科修了証書授与式が執り行われることができた。

三年前、期待と不安を抱きながら入学して

きた皆さんは驚くほど遅く成長した。それは、物事を考える視野の広さ、最先端の知識に裏付けられた高度な技術の数々、そして日々の行動

との関わりを通して、患者さんの気持ちを理解でき、全身疾患と歯科疾患との関連についての研究も、新しい展開を見せている。誤嚥性肺炎の予防やメタボリック症候群に対する歯科介入、とりわけ、糖尿病や心臓疾患の患者さんに対するブラッシングを含む、きめ

細かい口腔保健指導などは、今後の歯科医療の新しい領域として重要な分野になることは間違いない。胃がんの原因菌として注目されているピロリ菌も五歳ごろまでに唾液や口移しにより、母親などから感染することが分か

東京短大 卒業告辞

東京短期大学 小口春久

最初に皆さんが短期大学に入ったときに抱いた夢は実現できたであろうか。「自主独立」という日本歯科大学の建学の精神のもとで学んだ諸君は

けることによつて将来の道筋が見え展望が開けてくるだろう。若い皆さんはすでに将来を切り開いていく力をもっている

アメリカをはじめとする世界の大学では卒業式に学位記授与式をコメントという。コメントは親から独立して自分の旅に出る、すなわち出発という意味で卒業ではない。

最初に学びて時に之を習う、またよるこぼしかならずや。学校で学習したこと、人生において勉強したことを実践しよう、

社会に出て実践する勇氣をもつて勇敢に対応していくことが重要だ。

二番目は朋(とも)あり遠方より来たる、また立ちのときに自立しな

二番目は朋(とも)あり遠方より来たる、また立ちのときに自立しな

二番目は朋(とも)あり遠方より来たる、また立ちのときに自立しな

二番目は朋(とも)あり遠方より来たる、また立ちのときに自立しな

二番目は朋(とも)あり遠方より来たる、また立ちのときに自立しな



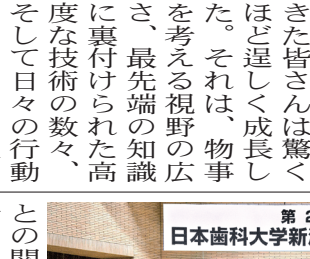
チーム医療の重要性を説く住友生命歯学部 小口春久



短期大学士の学位記が一人一人に手渡される



新潟短期大学 柴崎浩一



3年間の学園生活に別れを告げる卒業生たち



「強い心を！」と述べる小倉新潟生命歯学部 小倉英夫



3年間の学園生活に別れを告げる卒業生たち

からの口腔ケア教育がピロリ菌の感染予防に貢献できるとした素晴らしいことではないだろうか。歯科医療の高度化、多様化に伴い、より高度な専門教育が必要になっているが、本学では四月から、大学評価・学位授与機構から、専攻科「歯科衛生学専攻」の認定を受けることになった。専攻科を卒業した後は、論文を提出して学士を取得し、大学院での学位取得の道も開けると考えている。



東京短期大学 小口春久

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

二五〇〇年前古

目で見る

日本と西洋の歯に関する歴史

—江戸と明治期, 16~20世紀の資料を中心に—

大野肅英・羽坂勇司 著

A4判 カラー412頁 定価14,700円(本体14,000円+税) わかば出版



本書は、二部に分かれており、パートIが日本の歯に関する風俗と歯の治療、パートIIが西洋の歯に関する風俗と歯の治療になっています。歯科医学史研究者はもちろん、すべての歯科医学関係者にとっても、興味深い、貴重な絵画や写真が満載されています。これから歯科医師を目指す学生の方、開業される歯科医師の先生方への贈り物としても最適です。今回の改訂版では、より正確な記述に努め、カバの牙で作った入れ歯など200点に及ぶ新しい資料を追加して32頁増えています。

平成二十二年卒業生

大学院

第48回修了生

大学院生命歯学研究科修了生二十名、新潟生命歯学研究科修了生十三名は次の通り。

(生命歯学研究科)

- 歯周病学 佐藤宏和
麻酔学 塩谷伊毅
微生物学 石黒生美
補綴学I 渡邊篤士
病理学 工藤朝雄
補綴学II 林捷
口腔外科学 浅野一成
矯正学 比佐育世
口腔外科学 貴美島香
保存学 山田正
口腔外科学 岡田雅嗣
衛生学 (M.Sc. Degree) 伊井久貴
衛生学 高田寛
解剖学I 川島正人
解剖学II 青柳有祐
生理学 村山大悟
生理学 岩崎浩介
解剖学I 黒木淳也
解剖学II 村田英崇
(甲第九九七号まで)

大学

第100回卒業生

日本歯科大学第一〇〇回卒業生(新潟生命歯学研究科)六十五名は次の通り。

- 全身関連臨床検査学 北川哲太郎
全身関連臨床検査学 上田潤
顎口腔全身関連治療学 鈴木見奈子
顎口腔全身関連治療学 佐藤洋介
歯周機能治療学 菅原淳道
歯周機能治療学 山下穂
学位記授与者
論文提出による学位記授与者二十四名は次の通り。
口腔外科学 山下憲昭
矯正歯科学 石多理恵子
総合診療科 関秀明
歯科麻酔・全身管理科 山田麻衣子
総合診療科 馬場玲子
口腔外科学 金子允子
歯科矯正学 佐野奈都貴
解剖学I 宮脇佳子
歯科麻酔・全身管理科 平林幹貴
総合診療科 水橋亮
総合診療科 後藤基誉
総合診療科 若木卓
総合診療科 中村俊美
総合診療科 小野幸絵
横浜市大特研生 梅田和徳
新潟短大 宮崎晶子
総合診療科 落合真美
総合診療科 前田朋己
総合診療科 関根寿恵
総合診療科 濱田康弘
新潟短大 佐藤治美
矯正歯科学 阿部亮太
矯正歯科学 石多克行
口腔外科学 佐藤英明
(乙二四九号まで)

- ☆精勤賞受賞者
片桐浩樹 佐藤知弥子
高田真代 田川幸奈
都築秀幸 手塚里奈
西野鳩子 橋爪美帆
和田さや香
☆臨床実習優秀賞受賞者
高橋亜季
日本歯科大学第一〇〇回卒業生(生命歯学部)一〇五名は次の通り。
秋山崇太郎 浅香淳一
朝田充 阿部顕
安部佐 天野俊介
飯塚龍 伊澤栄里子
石田祥己 石橋彩里
今井恵理 内田和雅
内田充哉 ト部智美
江角優 大久保美佐
大塚源 大西小雪
大塚友美子 岡田敏宏
岡村武志 小川あゆみ
河田能治 河合貴俊
川脇花澄 菊池一徳
木村昌太郎 木本亮
熊澤亮人 小池みづき
河阪明彦 國司亜希
後藤裕二郎 小林智美
佐川敬一朗 志賀隆一
塩見崇央 新藤広基
柴田真由美 関西紗也子
須藤福太郎 田澤俊樹
武田宗矩 田中なつき
田中なつき 田宮旬子
堤幸司 寺嶋さくら
中島慎太郎 中嶋仁美
(第一九九七号まで)

- 中西康大 中原大策
永村実緒 那須真奈
新見嘉邦 西垣祐佳
野田裕亮 濱野優計
林真莉子 丹野咲貴
樋口達也 平井真理子
平松悠紀 廣畑直子
藤崎晋也 二村友規
古川直樹 古屋裕康
保科明人 中谷佑哉
松本明子 松村耕介
丸山修平 丸山修平
三宅崇博
森田優
矢吹司
山田亮
山本祐也 行村直也
山本祐也 戸塚健人
渡邊尚子 高橋章太郎
栗田俊臣 松田道隆
財部舞 伊藤有希
市川絵里香 岡田真由子
大久保佳代子 關晴妃
竹腰尚正 千龍貴子
戸田圭亮 西村歩
根本政和 昼川和宏
村橋恵
(第九九〇二号まで)

- ☆精勤賞受賞者
朝田充 石田祥己
小川あゆみ 河村理加
川脇花澄 寺嶋さくら
中西康大 永村実緒
那須真奈 (5ヶ年精勤)
野田裕亮 林真莉子
平松悠紀 廣畑直子
中谷佑哉 松本明子
右田彩乃 矢島麻衣子
渡邊尚子
☆臨床実習優秀賞受賞者
河合貴俊 陽川咲貴
永村実緒
(生命歯学部)
平成二十二年日本歯科大学学位記授与生(八十八名)は次の通り。

- 一年||清水美透 藤田遥
角千博 小本曾令実
村上泰津季 連記 梓
宮下大志 竹ノ下紫奈美
小澤藍加 駒津匡二
恩田裕香 大山豪
川上大 三代紗季
多村美希 森村宣之
小森太郎
三年||加藤景子 山本紗友理
上井達絵 松村嘉子
高見澤聡一 渡邊美穂
木下遼 内藤順平
相野田祥子 佐藤絢香
小川莉奈 平井菜緒子
川島裕裕 五十嵐正樹
石川宏樹 森田真央香
平賀智豊 黄田華恵
関谷美貴 金子友希乃
倉治竜太郎 庄司直記
湯澤友香 小口莉代
福井千緒 小笠原亜樹
小笠原亜樹 秋山崇太郎
大塚友美子 岡村武志
(新潟生命歯学部)
一年||武内柚香里 遠藤容子
大島千佳 城井友幸
谷口容子 鈴木翔平
谷口容子 永田量子
野辺典 須藤嵩文
神原優美 小出勝典
小松周平 波野悠夏
服部陽一 樋ノ上満大
岡直毅 阿部信加
三年||古川奈緒 大竹由佳子
金子陽祐 渡會侑子
五年||平形智佳 藤井友紀
川又崇彦 大木亜悠子
高橋理恵

平成23年度 歯学会大会・総会
日時：6月4日(土) 11:00~16:00
会場：新潟生命歯学部アイヴィホール・講堂
メインテーマ
口腔乾燥症の基礎と臨床 -口のかわき診療を中心に-
受賞講演
Understanding the formation of maxillary sinus in Japanese human foetuses using cone beam CT
日本歯科大学生命歯学部歯科放射線学講座 浅海利恵子
シンポジウム
唾液：口腔乾燥の基礎と研究の最前線 五十嵐敦子
開業医でのドライマウス診療の導入について 三村 博史
唾液分泌量測定
-どのように測定し、どう評価しているか- 後藤 聡
病院歯科口腔外科におけるドライマウス診療
-口腔ケアを中心に- 櫻井 賢
大学病院でのドライマウス診療
-臨床・教育・研究の取り組み- 戸谷 収二
問合せ先：準備委員長 戸谷収二(新潟病院口腔外科)
E-mail: toya@ngt.ndu.ac.jp

日本歯科大学 歯周病学卒後研修コース(予定)
ハーバード大学
CEコース料金：①日本歯科大学研修コース90万円(7月2日~10月16日)
②日本歯科大学研修+ハーバード大学研修コース150万円(7月2日~11月5日)
*渡航、宿泊費は別途/定員25~50名/申込締切6月9日
問合せ先：日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座CEコース事務局
E-mail: cecourse@tky.ndu.ac.jp TEL:03-3261-5937
CEコースの内容と日程
毎月日曜日には、講師陣によるケースプレゼンテーションがあります。
7/2(土) 10:00~17:30 どうなっているの? 歯周組織
9/10(土) 10:00~16:00 歯周外科手術、インプラント手術に必要な解剖を学ぶ!
7/3(日) 9:00~16:00 歯周疾患の真実を知るための検査テクニックと記録手法
9/11(日) 9:00~16:00 歯周外科手術、最初のステップを正しく正確にそして美しく!歯周治療のエッセンス!根分岐部病変治療への挑戦、歯周組織再生療法的光と影
7/23(土) 10:00~17:30 歯科にかかわる法律、基本知識と解釈・経済学、効率の良いマネージメント、歯周病の真実を知るためのテクニック
10/15(土) 10:00~17:00 その歯周治療は正しいですか?治せていますか?オーダーメイド治療へのストラテジー、トリートメント・SPTプランニング
7/24(日) 9:00~16:00 宿敵プラークを科学する、歯周病細菌検査をひもとく
10/16(日) 9:00~15:30 歯周補綴、そして矯正、最善の結果をもたらす全科にわたるアプローチ、インプラント治療を大成功に導くためには?
8/27(土) 10:00~17:40 まずはコレ。歯周基本治療を極めるI
11/2(水) ~11/5(土) Wound healing and Regeneration Oral-Systemic Links
8/28(日) 9:00~16:10 まずはコレ。歯周基本治療を極めるII
【ハーバード大学研修】の講義終了後には修了証の授与式があります。
日本歯科大学研修
ハーバード大学研修
※上記カリキュラムは変更される場合があります。